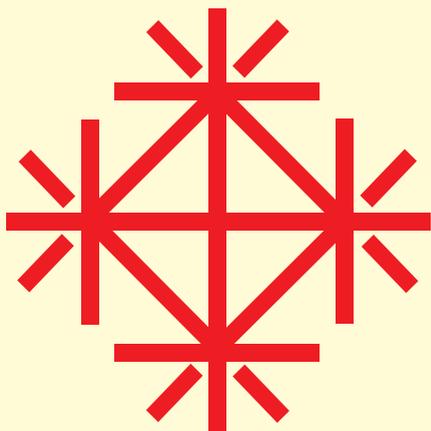


**KITOKU  
SHINRYO**

第62期  
株主通信

平成21年1月1日～平成21年12月31日

**木徳神糧株式会社**



【企業理念】

誠意と感謝の気持ち  
クオリティの追求  
新しい価値の創造

## Contents

トップインタビュー .....	01
木徳神糧アレコレ通信 .....	05
トピックス .....	06
連結財務諸表 .....	07
単体財務諸表 .....	09
会社概要 .....	10

**Q** 第62期の業績はいかがでしたか。

**A** 厳しい経営環境の中で、  
第62期の業績は増収減益となりました。

当社グループの主力商品の米は、平成21年産米の作況が98のやや不良となりました。しかしながら、平成20年産米の民間在庫が大幅に増加したことや、小麦価格の値下げを背景にした粉食回帰の現象が顕著となり、米の消費量の減退に伴う供給過剰



代表取締役社長

山 孝

の状況が継続いたしました。さらに、消費者の節約志向が根強いこと、小売や外食における値下げ競争が起きたことから大変厳しい経営環境となりました。このような状況の中、当社グループは、積極的な営業活動を展開し取扱数量の増加を図った結果、売上高は104,429百万円（前年同期比3.8%増）となりました。利益面では、製造コストや販売経費の削減に努めましたが、競争の激化に伴う利益率の低下、米の過剰在庫の発生等により、営業利益は1,042百万円（同20.3%減）、経常利益は941百万円（同20.7%減）となりました。また、法人税等の増加により当期純利益は578百万円（同34.2%減）となりました。

セグメント別では、米穀事業においてミニマム・アクセス米の取扱数量の増加、新規取引先の獲得等による精米販売数量の増加等により売上高が伸長しましたが、鶏卵事業、食品事業、飼料事業では前年同期を下回りました。利益面では全体的に利益率が低下しましたが、鶏卵事業、食品事業・飼料事業において営業利益が前年同期を上回りました。

**Q** さらなる成長を遂げるために、何が必要とお考えですか。

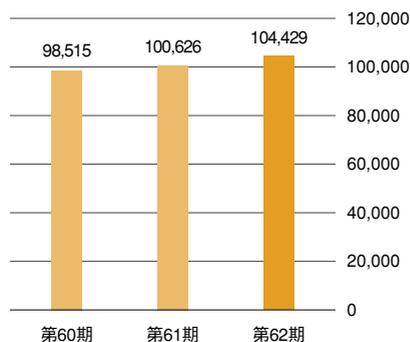
**A** 「チェンジ」と「存在意義」をキーワードに、「食」を通じて企業の成長と社会への貢献を目指します。

先ほどもお話したとおり、小麦価格の値下げによる粉食回帰や米消費量の鈍化など、引き続き当社グループにとって厳しい経営環境が続くことが予想されます。こうした中、環境の変化に対応しつつ持続的成長を実現するため、「チェンジ」と「存在意義」をキーワードに、広域米穀卸としての確固たる地位の確保、グローバルなコメビジネスの展開、新しい販売チャネル・用途の開拓、付加価値商品開発の強化、特徴ある飼料事業の強化などの経営課題に取り組んでまいります。

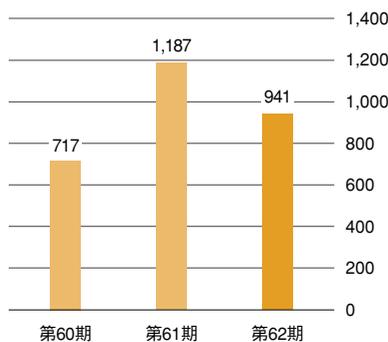
■ 新しい事業の創造

人口の減少、少子高齢化の進行で米消費が減少の一途を

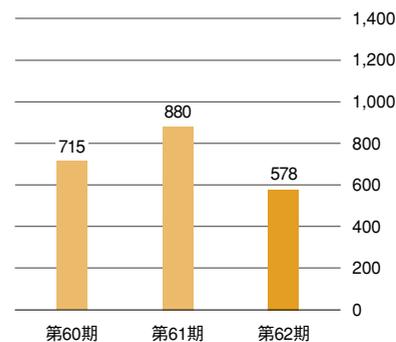
● 売上高 (単位：百万円)



● 経常利益 (単位：百万円)



● 当期純利益 (単位：百万円)



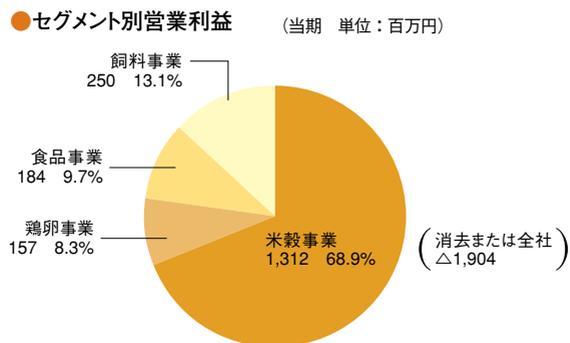
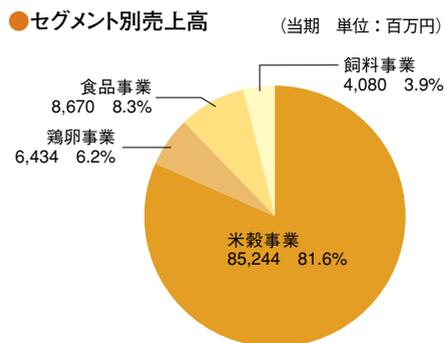
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

辿っております。これは日本の農業の未来と、日本の環境保全及び治水治水にとって大きな問題であると考えております。問題解決のためには米消費の拡大が是非とも必要ですが、当社グループは、そのための新しい切り口として、機能性のある低たんぱく米商品の開発や米糠の新たな価値を創造する純国産原油を使用したこめ油「こめしぼり」を販売してまいりました。今後、この分野をより充実させ、新しい商品づくり、新し

い事業分野の開拓を図るため、昨年末に事業戦略開発室を新設しました。現在、来期に向けて、様々な研究開発に取り組んでいるところです。また、組織のさらなる強化を検討しております。当社グループは、こうした取り組みを通じて、既存のコメビジネスの枠を越える事業展開を目指してまいります。

### ■ 海外での展開

当社グループは、アメリカ、タイ、ベトナムの3カ国に海外拠点を設置し、グローバルなコメビジネスを展開しております。特に、ベトナムでのジャポニカ米の生産については、従来、乾期米のみを生産してまいりましたが、当期において雨期作、三期作にも挑戦し、収穫量の向上に取り組ましました。従来、生産から販売までのすべてを当社のベトナム現地法人が行っていましたが、当期から生産についてはベトナムでのパートナー企業が、販売については当社の現地法人が行うというように役割分担を明確にした経営の効率化に取り組んでおります。今後はさらにこの体制を強化し、タイやカンボジアなどにおいても契約栽培の試行を行っていきたくと考えております。こうした取り組みは、現地の農業発展や生活向上に資するものであり、その意味でも当社グループの「存在意義」を高めることになると確信しております。



(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**Q** 株主の皆さまへのメッセージを  
お願いいたします。

**A** 当社ならではの株主優待に  
ご期待ください。

当社は、安定的な経営基盤を確保するとともに、株主の皆さまに対する安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。こうした方針に基づき、当期の期末配当金につきましては1株につき3円の普通配当とし、中間配当金2円と合わせて年間配当金は5円としました。次期においても安定配当を継続し、1株につき年間5円（中間配当2円、期末配当3円）を予定しています。また、当社では、株主の皆さまに喜んでいただけるよう、株主優待の充実を図ってまいりました。これまでは米を主体とする自社商品をお届けしておりますが、前々期より、米の良さを実感し、ご理解いただくために、自社米を原材料とするコメ加工食品をお届けするようにして



おります。今後とも当社では、株主の皆さまに喜んでいただけるよう、当社ならではの株主優待を実施してまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続き、当社の経営方針並びに経営施策に対する一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



期末株主優待品（丹波大納言赤飯と竹の子のおこわ）

### 来期業績見通し

売上高

107,320百万円

経常利益

800百万円

当期純利益

450百万円

## 取材 アレコレ

海外駐在員レポート

## 活気溢れる国、ベトナムより

アンジメックス・キトク有限会社は、木徳神糧株式会社とベトナム・アンジャン省の輸出入公社との合併会社で、メコン川流域の稲作地帯で長粒種米、香り米、日本米の集荷・加工・販売に関する事業を展開しております。今回は竹内駐在員が躍動しているベトナムの現況を皆さんにお伝えします。

海外事業部 ベトナム駐在員

**竹内 常泰**

アンジメックス・キトク有限会社  
取締役副社長



### ●ホーチミン市内

ベトナムでの移動の手段としては、バイクが多く利用されております。移動中の車窓からの風景は、バイクで溢れかえり、ここにもベトナムの活気を感じられます。最近では少しずつ自動車も増えております。



### ●街角の朝食風景

日本でも最近よく見かけるようになった米粉の麺「フォー」。本場ホーチミンでも朝食に人気があります。専門店での外食だけでなく、路上のお店でテイクアウトをする人も多くいます。毎日のようにおコメ製品を食べる習慣のあるベトナムという国にとっても親しい気持ちを抱きます。



### ●スーパーマーケット

富裕層の住む地域に出店しているボーリング場やシネコンを併設するスーパー。当社の商品も並べられております。



### ●日系コンビニ

昨年12月にオープンした1号店。カップ麺とおにぎりのセットが10,000ドン(約50円)で販売されていました。

経済成長著しいベトナムは、生活水準の向上に伴い購買・消費意欲も旺盛で、日本の流通業・小売業からも注目を集め、日系企業の進出が相次いでいる活気溢れる国です。当社は、20年来のベトナムにおける事業展開で培ったノウハウをもとに、ベトナムを中心に海外事業を拡大し、新たな成長を目指してまいります。

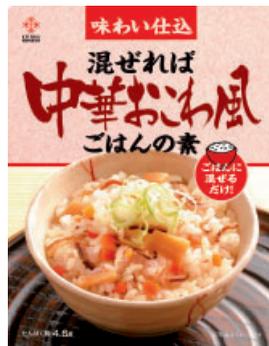
## 味わい仕込混ぜればごはんの素をリニューアルいたしました。

日頃、食餌療法によってたんぱく質の摂取量を制限されている方々が、無理なく主食であるごはんから摂取するたんぱく量を低減することができるよう、当社では低たんぱく米を商品化しております。中でも、「混ぜればごはんの素」シリーズは、ネーミングのとおりごはんに混ぜるだけの手軽さと、たんぱく量の調整を行いつつ食卓のバリエーションを豊かにする商品としてご好評をいただいております。そして、このたび、「混ぜればごはんの素」シリーズをリニューアルし、「五目ごはん」「中華おこわ風」「きのこごはん」の3タイプを発売開始いたしました。今後も低たんぱく米「越後」シリーズとともに、たんぱく質調整食を美味しく豊かなものとするための取り組みを進めてまいります。



### 五目ごはんの素

鶏肉、野菜など素材を活かし、鰹だしで仕上げました。



### 中華おこわ風ごはんの素

豚肉、野菜などを中華味で仕上げました。



### きのこごはんの素

きのこや油揚げを鰹だしで風味の良い味に仕上げました。

**担当者に  
聞きました**  
コメ加工事業部  
勝俣幸子

平成21年12月に、「混ぜればごはんの素」をリニューアルいたしました。これは、ご利用いただいているお客さまや栄養士の方々にヒアリングを行う中で、ご高齢のお客様にとって、従来の「越後」シリーズのパックタイプの内容容量が多すぎるというご意見があり、パックタイプの内容容量を180gから150gに変更したことに伴い、「混ぜればごはんの素」もリニューアルを図ったものです。ごはんの量に合った容量に変更するとともに、具材のサイズも食べやすい大きさにいたしました。温めたごはんに混ぜるだけの手軽な調理方法もご支持をいただき、ご自宅だけでなく、お勤め先でのお食事にご利用いただいております。今後もお客さまの声をお聞きしながら、健康で豊かな食生活の実現をお手伝いしてまいります。

# Financial Data 連結財務諸表

## 連結貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	平成21年12月31日現在	平成20年12月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	20,577,053	18,408,257
固定資産	8,525,789	8,905,191
有形固定資産	6,879,978	7,096,125
無形固定資産	74,547	54,872
投資その他の資産	1,571,263	1,754,193
<b>資産合計</b>	<b>29,102,843</b>	<b>27,313,449</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	21,120,049	19,123,753
固定負債	2,730,503	3,463,582
<b>負債合計</b>	<b>23,850,552</b>	<b>22,587,336</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	4,872,064	4,349,269
資本金	529,500	529,500
資本剰余金	331,500	331,500
利益剰余金	4,029,927	3,506,869
自己株式	△18,862	△18,599
評価・換算差額等	△62,304	△61,888
少数株主持分	442,530	438,732
<b>純資産合計</b>	<b>5,252,290</b>	<b>4,726,113</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>29,102,843</b>	<b>27,313,449</b>

### Point 1 資産

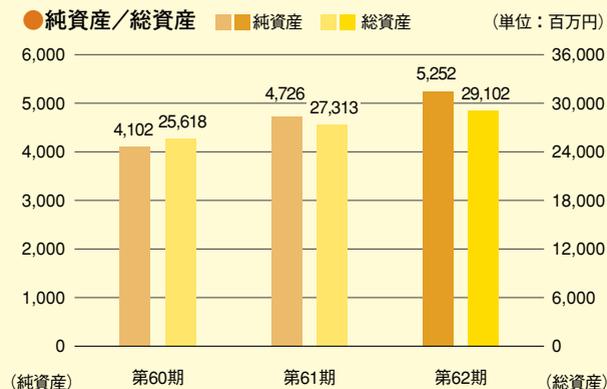
資産合計は前期末より1,789百万円増となり、主にたな卸資産1,114百万円、ミニマム・アクセス米取引に係る前渡金2,098百万円の増加、売掛金685百万円、現預金262百万円の減少等によるものであります。

### Point 2 負債

負債合計は前期末より1,263百万円増となり、主に短期借入金2,872百万円の増加、買掛金1,823百万円の減少等によるものであります。

### Point 3 純資産

純資産は前期末より526百万円増となり、主に利益剰余金523百万円の増加によるものであります。



## 連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	自平成21年1月1日 至平成21年12月31日	自平成20年1月1日 至平成20年12月31日
売上高	104,429,761	100,626,832
売上原価	97,706,047	93,595,795
売上総利益	6,723,713	7,031,037
販売費及び一般管理費	5,681,033	5,723,237
営業利益	1,042,680	1,307,799
営業外収益	183,018	257,701
営業外費用	283,986	377,966
経常利益	941,712	1,187,534
特別利益	29,921	63,632
特別損失	51,204	141,250
税金等調整前当期純利益	920,428	1,109,916
法人税、住民税及び事業税	424,398	140,466
法人税等調整額	△107,512	47,375
少数株主利益	24,590	41,647
<b>当期純利益</b>	<b>578,952</b>	<b>880,426</b>

### Point 4 法人税等

法人税、住民税及び事業税等が前期より大幅に増加いたしました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	自平成21年1月1日 至平成21年12月31日	自平成20年1月1日 至平成20年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,134,235	922,954
投資活動によるキャッシュ・フロー	△237,640	△205,696
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,140,884	△1,190,417
現金及び現金同等物に係る換算差額	761	△15,965
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△230,230	△489,125
現金及び現金同等物の期首残高	2,271,377	2,760,502
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	24,925	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△30,770	—
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>2,035,301</b>	<b>2,271,377</b>

### Point 5 営業活動

営業キャッシュ・フローにおいては、主に大幅な仕入債務の減少とたな卸資産の増加がありました。

### Point 6 財務活動

財務キャッシュ・フローにおいては、仕入及び在庫の増加に伴う短期借入金が大幅に増加いたしました。

### 連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当 期	自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日	株主資本				評価・換算差額等					少数 株主持分	純資産 合計
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年12月31日 残高		529,500	331,500	3,506,869	△18,599	4,349,269	59,587	△76,403	△45,073	△61,888	438,732	4,726,113
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当		—	—	△42,402	—	△42,402	—	—	—	—	—	△42,402
当期純利益		—	—	578,952	—	578,952	—	—	—	—	—	578,952
自己株式の取得		—	—	—	△357	△357	—	—	—	—	—	△357
自己株式の処分		—	—	△3	94	91	—	—	—	—	—	91
連結範囲の変動		—	—	△13,489	—	△13,489	—	—	—	—	—	△13,489
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)		—	—	—	—	—	△98,928	106,013	△7,500	△415	3,798	3,382
連結会計年度中の変動額合計		—	—	523,057	△263	522,794	△98,928	106,013	△7,500	△415	3,798	526,177
平成21年12月31日 残高		529,500	331,500	4,029,927	△18,862	4,872,064	△39,340	29,610	△52,573	△62,304	442,530	5,252,290

### 単体貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	平成21年12月31日現在	平成20年12月31日現在	平成21年12月31日現在	平成20年12月31日現在
<b>資産の部</b>				
流動資産	16,229,052	14,003,732		
固定資産	6,869,801	7,250,316		
有形固定資産	4,456,381	4,644,596		
無形固定資産	38,325	30,083		
投資その他の資産	2,375,094	2,575,637		
<b>資産合計</b>	<b>23,098,853</b>	<b>21,254,049</b>		
<b>負債の部</b>				
流動負債	16,781,427	14,931,410		
固定負債	2,137,450	2,525,110		
<b>負債合計</b>	<b>18,918,878</b>	<b>17,456,521</b>		
<b>純資産の部</b>				
株主資本	4,188,709	3,814,691		
資本金	529,500	529,500		
資本剰余金	331,500	331,500		
利益剰余金	3,346,572	2,972,291		
自己株式	△18,862	△18,599		
評価・換算差額等	△8,733	△17,163		
<b>純資産合計</b>	<b>4,179,975</b>	<b>3,797,528</b>		
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>23,098,853</b>	<b>21,254,049</b>		

### 単体損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日	自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日	自 平成21年1月1日 至 平成20年12月31日	自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日
売上高	86,713,533	82,252,887		
売上原価	82,290,256	77,499,774		
売上総利益	4,423,276	4,753,112		
販売費及び一般管理費	3,610,303	3,643,408		
営業利益	812,973	1,109,704		
営業外収益	160,680	144,011		
営業外費用	241,474	342,199		
経常利益	732,179	911,516		
特別利益	470	46,919		
特別損失	27,043	35,829		
税引前当期純利益	705,606	922,606		
法人税、住民税及び事業税	377,649	84,445		
法人税等調整額	△88,728	57,346		
<b>当期純利益</b>	<b>416,686</b>	<b>780,813</b>		

#### 配当について

期末配当金につきましては、1株につき3円の普通配当とし、中間配当2円と合わせて年間配当5円となりました。

## 会社概要 (平成21年12月31日現在)

**商号** 木徳神糧株式会社  
**事業内容** 米穀事業、海外事業、飼料事業、  
 コメ加工食品事業  
**本店所在地** 〒104-0061  
 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル2階  
**本社事務所** 〒132-0015  
 東京都江戸川区西瑞江2-14-6  
 TEL：03-5636-1501（代表）  
 FAX：03-5636-1601  
**資本金** 5億2,950万円  
**従業員数** 161名（臨時雇用者を除く）

## 役員 (平成22年3月25日現在)

### 取締役・監査役

取締役会長 木村 良  
 代表取締役社長 平山 惇  
 取締役副社長 松山 正吉  
 専務取締役 山本 幸雄  
 取締役常務執行役員 水野 正夫  
 取締役常務執行役員 伊豫田 直記  
 取締役執行役員 天川 誠  
 取締役執行役員 小森 浩資  
 取締役執行役員 三澤 正博  
 常勤監査役 高橋 健治  
 監査役※ 松下 守  
 監査役※ 杉野 翔子

### 執行役員

執行役員 稲垣 英樹  
 執行役員 鎌田 慶彦  
 執行役員 竹田 光男  
 執行役員 佐藤 善雄  
 執行役員 石田 俊幸  
 執行役員 大橋 正博

※印は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## 事業所一覧

- 本社
- 本店・支店
- 工場



## Homepage information

### ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。



<http://www.kitoku-shinryo.co.jp>

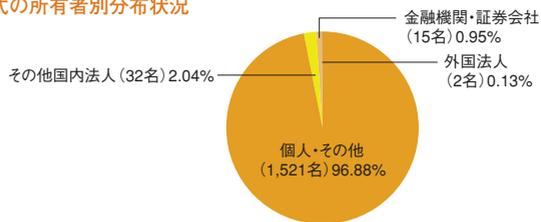
## 株式の状況 (平成21年12月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 8,530,000株  
 (3) 株主総数 1,570名  
 (4) 大株主

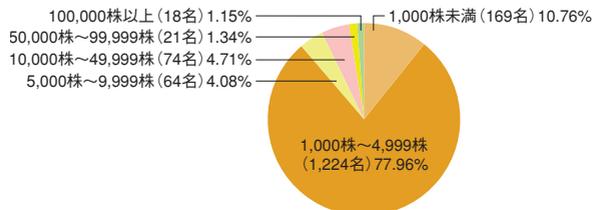
株主名	所有株式数	持株比率
木村謙三	405千株	4.77%
木村良	339	3.99
濱田精麦株式会社	310	3.65
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
木村友二郎	243	2.86
稲垣辰彌	230	2.71
水野正夫	218	2.57
木徳神糧従業員持株会	205	2.42
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

- (注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は、自己株式50,029株を控除して計算しております。  
 3. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

## 株式の所有者別分布状況



## 株式の所有数別分布状況



## 株主メモ

- 事業年度 1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
- 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
- 上場証券取引所 ジャスダック証券取引所
- 公告方法 日本経済新聞

## [株式に関するお手続きについて]

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>● 支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>● 株主事務に関する一般的なお問い合わせ ※証券会社等の口座に登録された株式については、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。</li> </ul>	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目 10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<p>[特別口座に登録された株式]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別口座から一般口座への振替請求</li> <li>● 単元未満株式の買取(買増)請求</li> <li>● 住所・氏名等のご変更</li> <li>● 特別口座の残高照会</li> <li>● 配当金の受領方法の指定(*)</li> </ul>	特別口座の 口座管理機関	<p>[手続き書類のご請求方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料)</li> <li>● インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a></li> </ul>

(\*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主さまは、配当金の受領方法として株式数比例配分方式をお選びいただけません。

安全、確実、迅速な配当金のお受取方法として、  
口座振込みをお勧めいたします。

